

# 序章 相続・遺言のしくみ

## ●相続

相続の開始／相続人（相続順位・配偶者・相続欠格事由・廃除）／相続分（指定相続分・法定相続分・特別受益・寄与分）／相続の効力（遺産の範囲・祭祀財産の承継）／遺産の分割／承認、放棄（三カ月で単純承認・限定承認・放棄）／相続人の不存在

## ●遺言

遺言能力と遺言の種類／遺贈／遺言の執行／遺留分

# 第一章 相続人と相続分

## ■基礎講座

Q 1	先妻の子と後妻および後妻の子の相続分	26
Q 2	非嫡出子の相続権はどうなっているか	28
Q 3	胎児も相続できるのか	31
Q 4	実子と養子の相続分は異なるか	32
Q 5	生前贈与または遺贈を受けた相続人の相続分	34

Q 6	偽装婚姻の配偶者は相続人になるのか	39
Q 7	外国籍を取得した場合でも相続できるか	42
Q 8	内縁の妻（夫）には相続権がないのか	46
Q 9	老人性認知症である被相続人となりうる者の浪費に対する対処法	50
Q 10	親不孝の息子を相続人から除く方法	55
<b>第二章 寄与分</b>		
<b>■基礎講座■</b>		
Q 1	寄与分と相続分の関係	62
Q 2	寄与分がある場合の相続人の取得する遺産の計算方法	64
Q 3	生前贈与と寄与分の関係	67
Q 4	代襲相続人の寄与	70
<b>第三章 遺産の範囲</b>		
<b>■基礎講座■</b>		
Q 1	受取人を妻と指定した生命保険金は相続財産か	73
78		
76		
75		
73		
70		
67		
64		
62		
61		
55		
50		
46		
42		
39		

Q 2	夫の死亡退職金は相続財産か	81
Q 3	借家に同居していた妻は夫の死亡後、引き続き住めないか	84
Q 4	離婚した母が死亡した場合、相続人は財産分与請求ができるか	87
Q 5	ゴルフ会員権の相続は可能か	90
Q 6	保証人が死亡した場合、その相続人は保証債務を相続するか	97
Q 7	多重債務者の相続と生命保険金	103
Q 8	相続人の一部の放棄により他の相続人の相続分はどう変わるか	107
<b>第四章 遺産分割</b>		
..... 109		
<b>■基礎講座</b>		
Q 1	遺言がある場合にも遺産分割協議が必要か	110
Q 2	相続人の一部の者が行方不明の場合の遺産分割協議の方法	115
Q 3	遺産分割協議どおりの履行がなされない場合の救済方法	119
Q 4	遺産分割協議によって取得した遺産に瑕疵があつた場合の対処法	122
Q 5	遺産分割後に死後認知された子が現れた場合、遺産分割はやり直すのか	124
Q 6	偽造の離婚届を出されていたが相続権はなくなるのか	127

Q 7	生前に遺産分割は可能か	130
Q 8	銀行預金は遺産分割協議をしなくても払戻しを受けられるか	133
Q 9	相続税の申告期限までに遺産分割協議が終了することが必要か	136
Q 10	相続人の一部が未成年の場合、誰が遺産分割協議をするのか	140
Q 11	遺産分割協議書は本人が署名し、実印を押捺しないといけないのか	143
Q 12	不動産の相続で金銭により遺産分割をしたい場合の手続	145
Q 13	相続人の一人が外国に居住している場合の遺産分割協議の方法	148
Q 14	遺産が海外不動産である場合、どの国の法律で、どのように処理されるのか	151
Q 15	在日外国人について相続人がいない場合の遺産の処理方法	155
Q 16	農地が遺産となっている場合に農業従事者でない者が相続できるか	159
Q 17	相続人の一部の者が老人性認知症になっている場合の遺産分割協議の方法	162
Q 18	遺産分割協議中に遺産の価格が変動した場合、いつを基準に評価をするのか	165
Q 19	遺産分割協議の手続中に相続人が死亡した場合の手続	167
Q 20	遺産分割協議中における遺産の管理はどうするのか	169
Q 21	遺産分割協議中における遺産の独り占めを防止する方法	173
Q 22	遺産分割調停の申立ての仕方	176

Q 23	遺産を相続人の一部の者が勝手に処分した場合の法的手続	180
Q 24	一部の相続人では貸金庫を開けてもらえないか	183

## 第五章 遺言

.....	187
-------	-----

### ■基礎講座■

Q 1	遺言にはどのようなことを書けるか	191
Q 2	「遺贈する」とするよりも「相続させる」旨の遺言のほうがよい理由	194
Q 3	自筆証書遺言の作成方法と留意点	198
Q 4	自筆証書遺言はワープロやパソコンで作成してもよいか	201
Q 5	録音テープ・ビデオテープによる遺言は有効か	203
Q 6	遺言書の保管にあたっての留意点	206
Q 7	遺言書を発見したらどのようにすればよいか	208
Q 8	遺言書が数通見つかった場合はどうするべきか	210
Q 9	遺言書の変更、訂正するには	212
Q 10	自筆証書遺言のトラブル例	215
Q 11	公正証書遺言の作成方法と長所	219

Q 12	公正証書遺言の作成場所と費用	222
Q 13	内容を誰にも知られないで遺言をつくる方法（秘密証書遺言）	225
Q 14	「相続させる」旨の遺言に基づく登記手続	228
<b>第六章 遺留分</b>		
.....		
<b>■基礎講座</b>		
Q 1	遺留分および遺留分侵害額の算定方法	232
Q 2	遺留分減殺請求の仕方	237
Q 3	遺留分減殺の対象と範囲	241
Q 4	遺言の無効を主張しつつ遺留分減殺請求はできないか	245
Q 5	遺留分減殺で特定の遺産を取得できるか	249
<b>第七章 相続と税金</b>		
.....		
<b>■基礎講座</b>		
Q 1	相続時精算課税制度	257
Q 2	相続税の計算方法	258

Q 3	相続税の申告手続(1)	272
Q 4	相続税の申告手続(2)——更正請求	276
Q 5	相続税の申告手続(3)——延納・物納等	280
Q 6	遺産分割と相続税	286
Q 7	小規模宅地等についての相続税	288
Q 8	生存配偶者の相続税	293
<b>参考資料</b> ……………297		
①	後見開始審判および成年後見人選任の申立書記載例	298
②	推定相続人廃除の申立書記載例(生前の場合)	302
③	相続放棄の申述書記載例	305
④	未成年者のための特別代理人選任申立書記載例	308
⑤	遺産分割調停の申立書記載例	312
⑥	自筆証書による遺言書例	314
⑦	自筆証書遺言の訂正例	319
⑧	自筆証書を入れる封筒の記載例	321

・執筆者一覧	325
⑨ 公正証書による遺言書例	322